

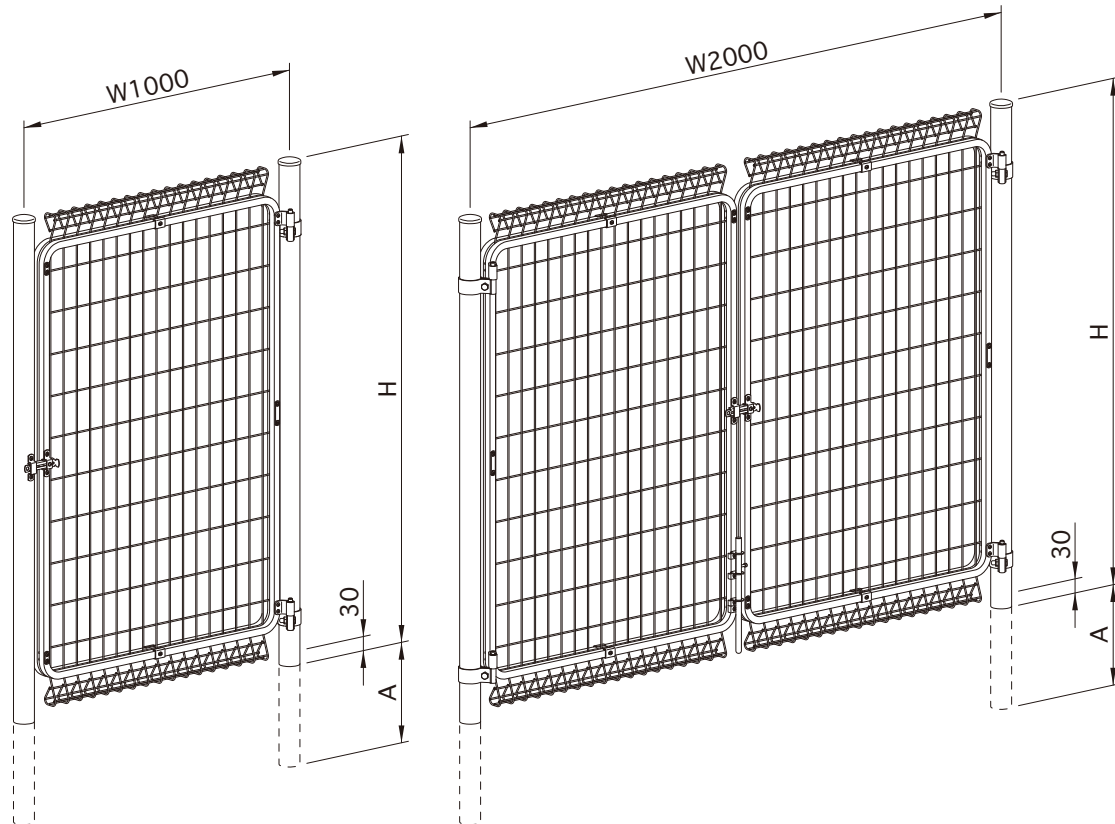
# FMフェンス

## H800~H2000 門扉組立要領書

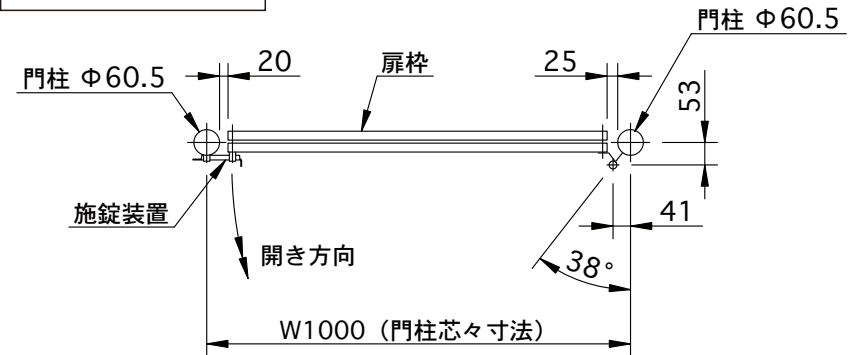
○ H800~H1500 の場合

門柱・扉本体施工平面図

門柱建込み時に必ず確認して下さい。



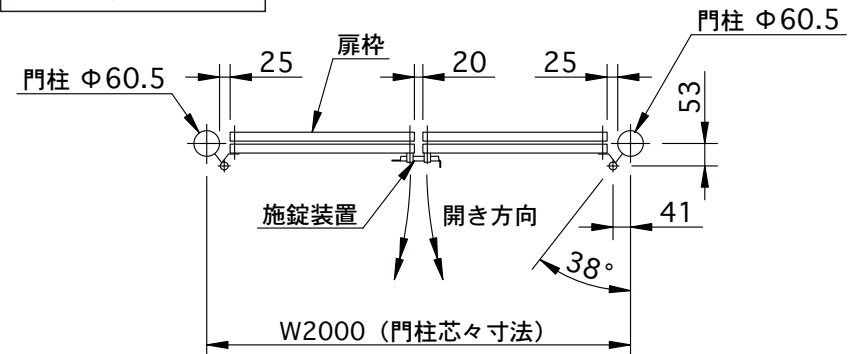
片開き扉 W1000



※ドア高さ H900 のバンド位置

施錠側門柱のバンド位置と門扉の施錠位置が同じ位置になっています。フェンス柱に取付しているバンド位置と異なりますが、施錠装置と干渉しない位置に取付してください。

両開き扉 W2000



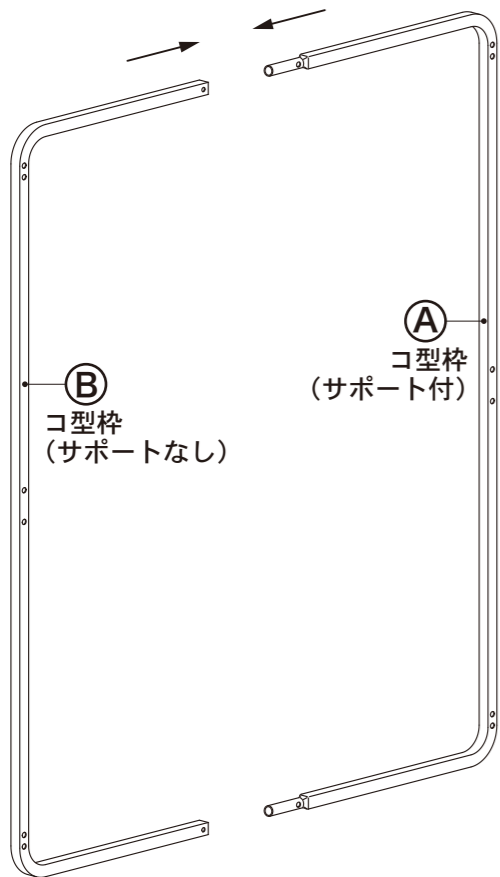
単位 mm

高さ (H)	800	900	1000	1200	1500
門柱埋込み寸法 (A)	250	250	250	250	300

# ① パネルの準備

## (a) 扉枠

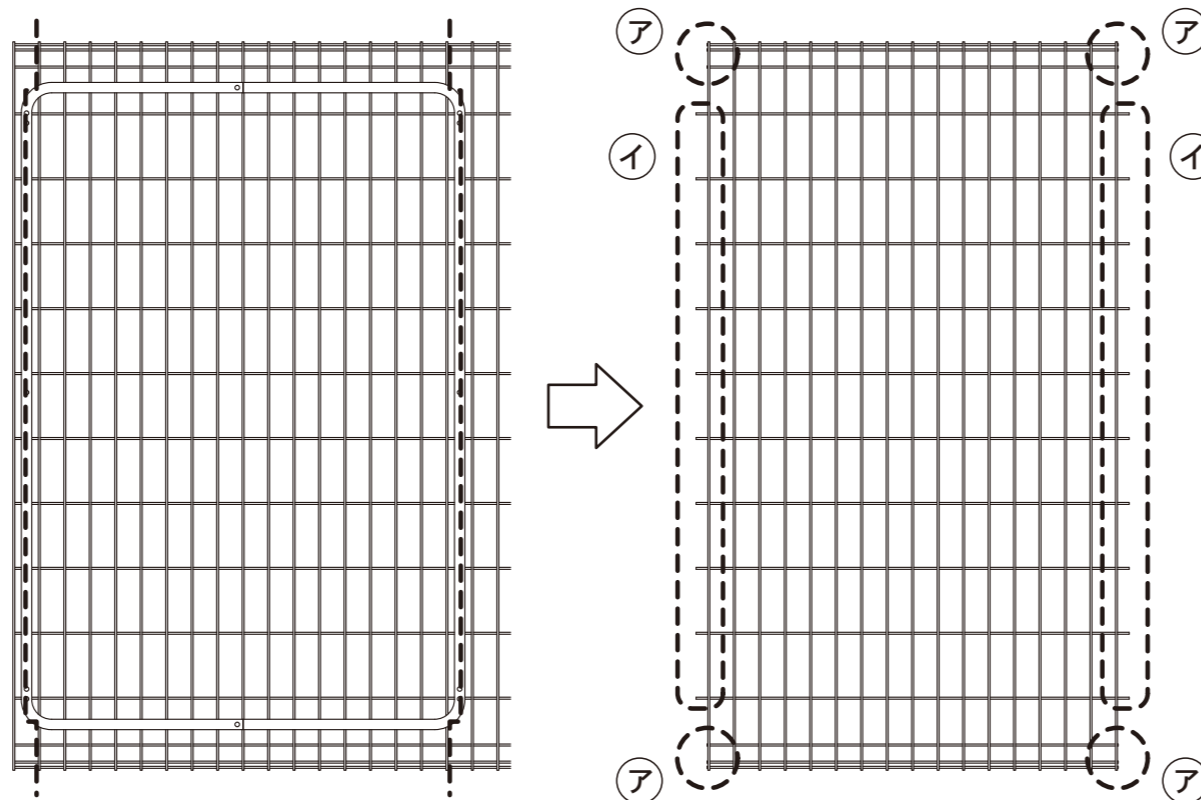
コ型枠を下図のように差し込み、扉枠をつくれます。(ボルト留めはしない。)



## (b) パネルのカット

パネルに (a) の扉枠を仮置きし、下図のラインでカットします。(扉枠のサポート部が奥まで確実に入っていることを確認してください。)

H800~H1500 ※下図はH1500の例です。



左図は片開き門扉(W1000)の例です。両開き(W2000)では、コ型枠の幅が20mm広いためカット位置が多少異なります。

一枚のパネル(2m)から、片開き門扉(W1000)に使用するパネルが2枚、両開き(W2000)に使用するパネルが1組とれます。

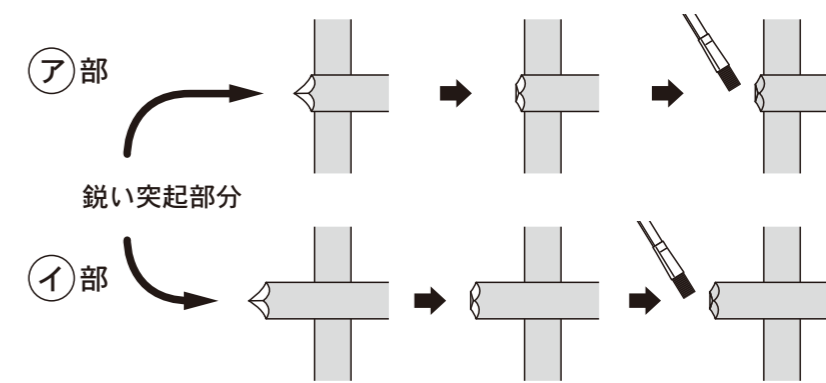
横線がボルト穴にかかる場合は切断して調整してください。

### パネルのカット面



切断部分の鋭くとがった突起は、危険ですのでサンダーまたはヤスリで削ってください。

同梱の補修塗料にて切断面を塗装(2回塗り)してください。



※イ部は枠体にはさめる為突出を設ける。

### 門扉幅を小さくする場合

- ・扉枠は片開き門扉をW1000用、両開きはW2000用で製作しています。門扉幅を小さくする場合は、現地にて②コ型枠サポートなし側の接続部(上下)をカット・穴あけして組立てしてください。(接続位置は扉中央にはなりません。)

門扉の最小門扉幅は

片開き門扉の場合 ..... W680

両開き門扉の場合 ..... W1300  
(両側扉が均等寸法時)

- ・カット・穴あけ箇所は補修塗料で塗装をしてください。

## ② 組立て [W1000片開き]

・下記はFM門扉の組立ての一例です。開き方向、施錠側によりボルト方向、蝶番方向等を適宜変更してください。

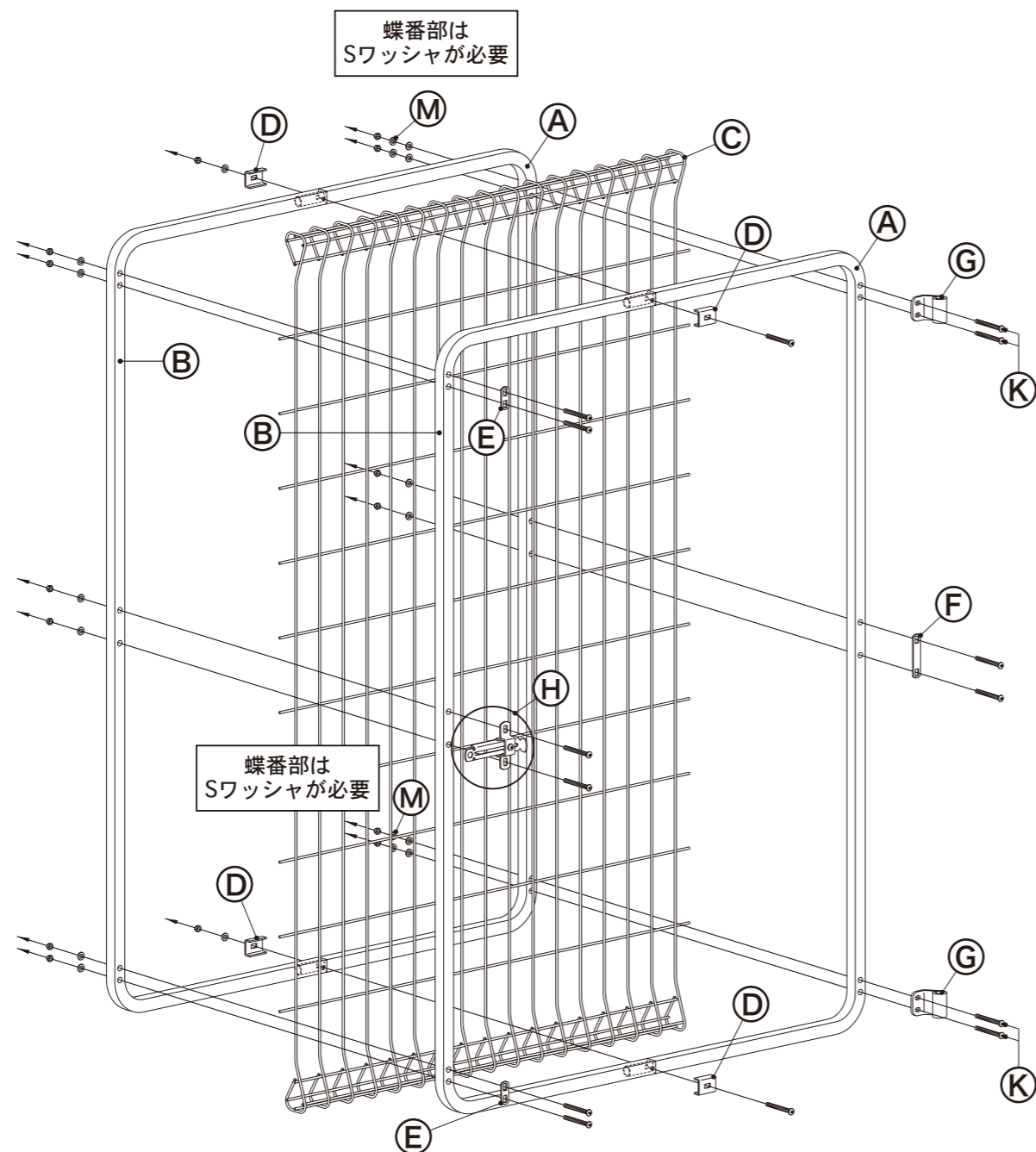
〈門扉1基に使用する部材〉 門柱は除く

記号	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)※1	(F)※1	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)	(M)	(N)
部材	コ型枠 (サポート付)	コ型枠 (サポートなし)	パネル	枠接続 カバー L=35	4隅 カバー	センター カバー	枠側蝶番	・施錠レバー ・レバー支持 ・トラスビスUNT M5×14(W3)	レバー 受け	角根ボルト M6×60 ワッシャ 丸付ナット	角根ボルト M6×63 ワッシャ 丸付ナット	角根ボルト M6×72 ワッシャ 丸付ナット	Sワッシャ M6	止め輪 セットM12 (止め輪2枚入)
数量	2	2	1	4	6	4	2	1	1	10	4	2	4	1

※1  
[ 4隅カバー、センターカバーは  
開き方向により、ボルト頭側に  
追加が必要な場合があります。 ]

下図のように組立てます。ボルト・ナットは本締めせず、仮止めにて全体を組み立ててください。表記のないボルト・ナットは

①角根ボルト M6×60 ワッシャ丸付ナットにて組立てます。



## ③ 完成

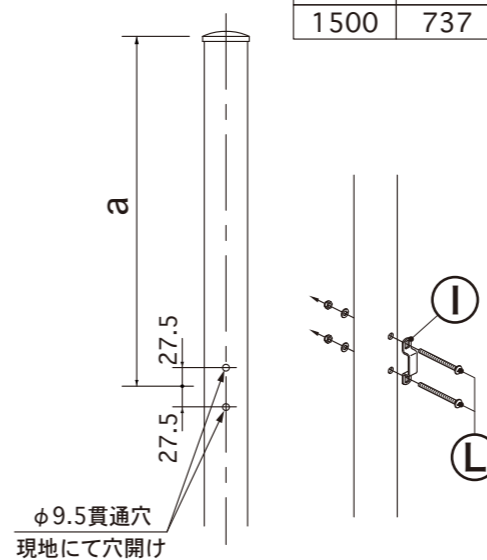
枠のねじれ、ゆがみを正してボルト・ナットを本締めし、門柱に取付けます。下側の蝶番部に止め輪をつけて完成です。

施錠側の門柱に穴開けし、レバー受けを取付けます。

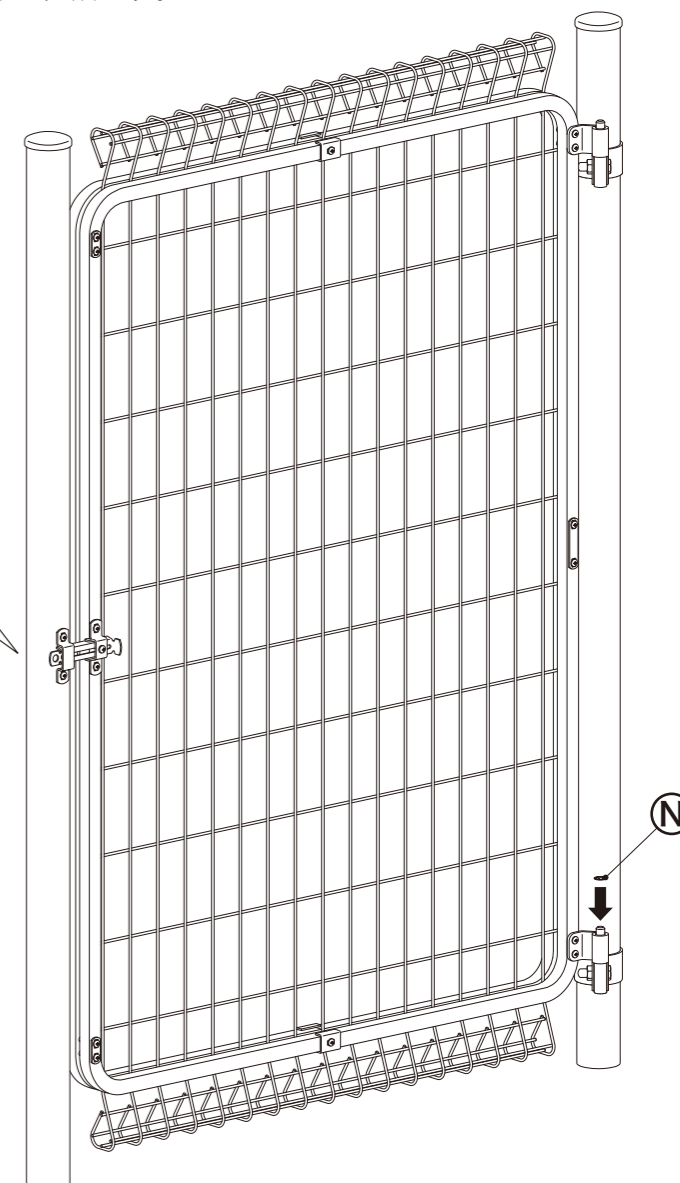
注) 施錠レバーの先端は門柱側で多少下がるようになっています。(門柱側が上がると風等に依る扉の揺れで、施錠が解錠する場合があります。)

穴開け寸法 (mm)

H	a
600	287
800	387
900	437
1000	487
1200	587
1500	737



・現地穴あけ箇所はバリ取り後補修塗りを施す。



## ② 組立て [W2000両開き]

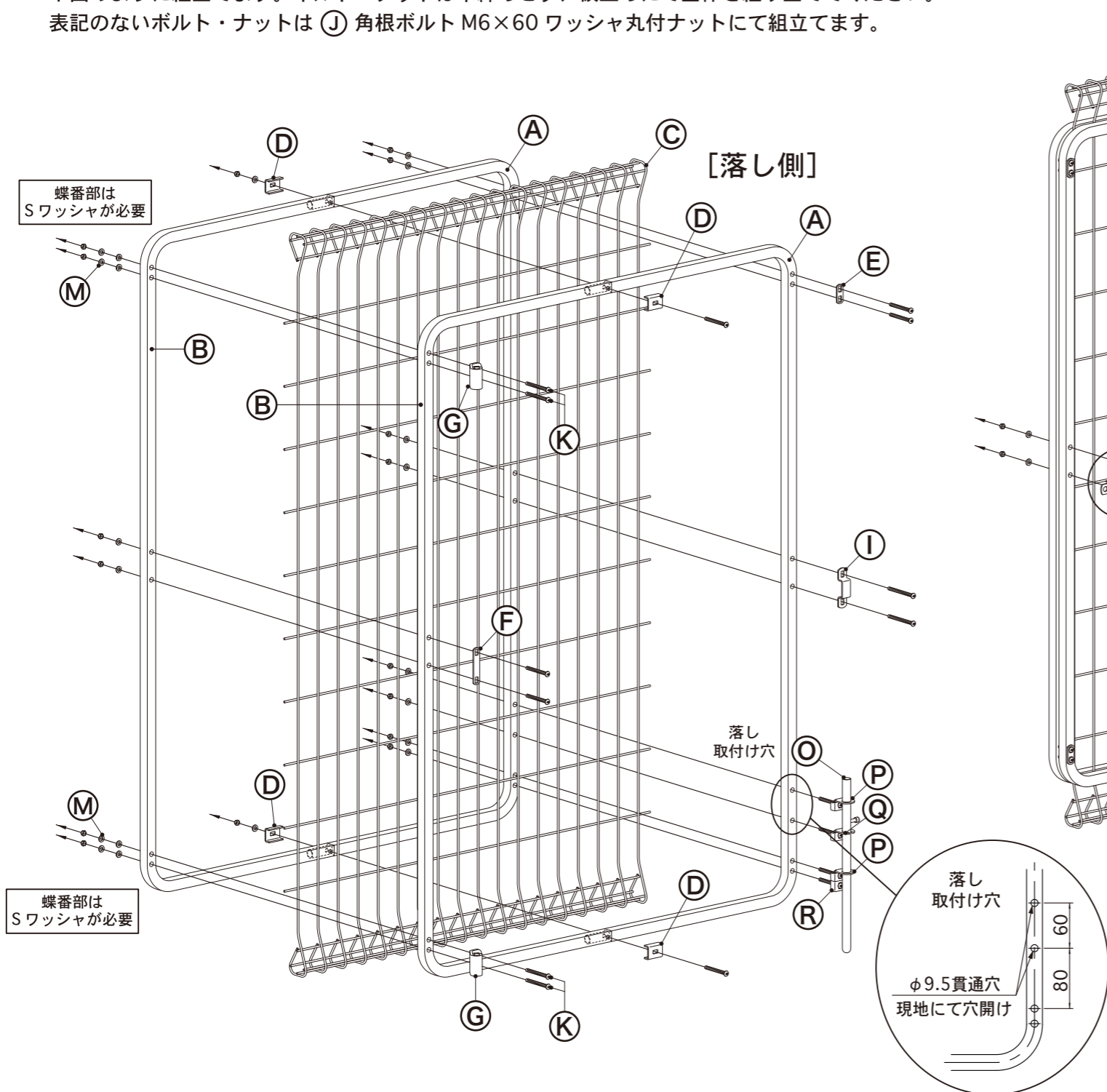
・下記はFM門扉の組立ての一例です。開き方向、施錠側によりボルト方向、蝶番方向、落とし取付け側等を適宜変更してください。

〈門扉1基に使用する部材〉 門柱は除く

記号	A	B	C	D	E ※1	F ※1	G	H	I	J	K	M	N	O	P	Q	R
部材	コ型枠 (サポート付)	コ型枠 (サポートなし)	パネル	枠接続 カバー L=35	4隅 カバー	センター カバー	枠側蝶番	・施錠レバー ・レバー支持 ・トラスビスUNT M5×14(W3)	レバー 受け	角根ボルト M6×60 ワッシャ 丸付ナット	角根ボルト M6×63 ワッシャ 丸付ナット	Sワッシャ M6	止め輪 セットM12 (止め輪2枚入)	落とし棒 16×345	上下 落とし受け	中間 落とし受け	落としカバー
数量	4	4	2	8	11	6	4	1	1	22	8	8	1	1	2	1	2

※1  
[ 4隅カバー、センター  
カバーは開き方向によ  
り、ボルト頭側に追加  
が必要な場合があります。 ]

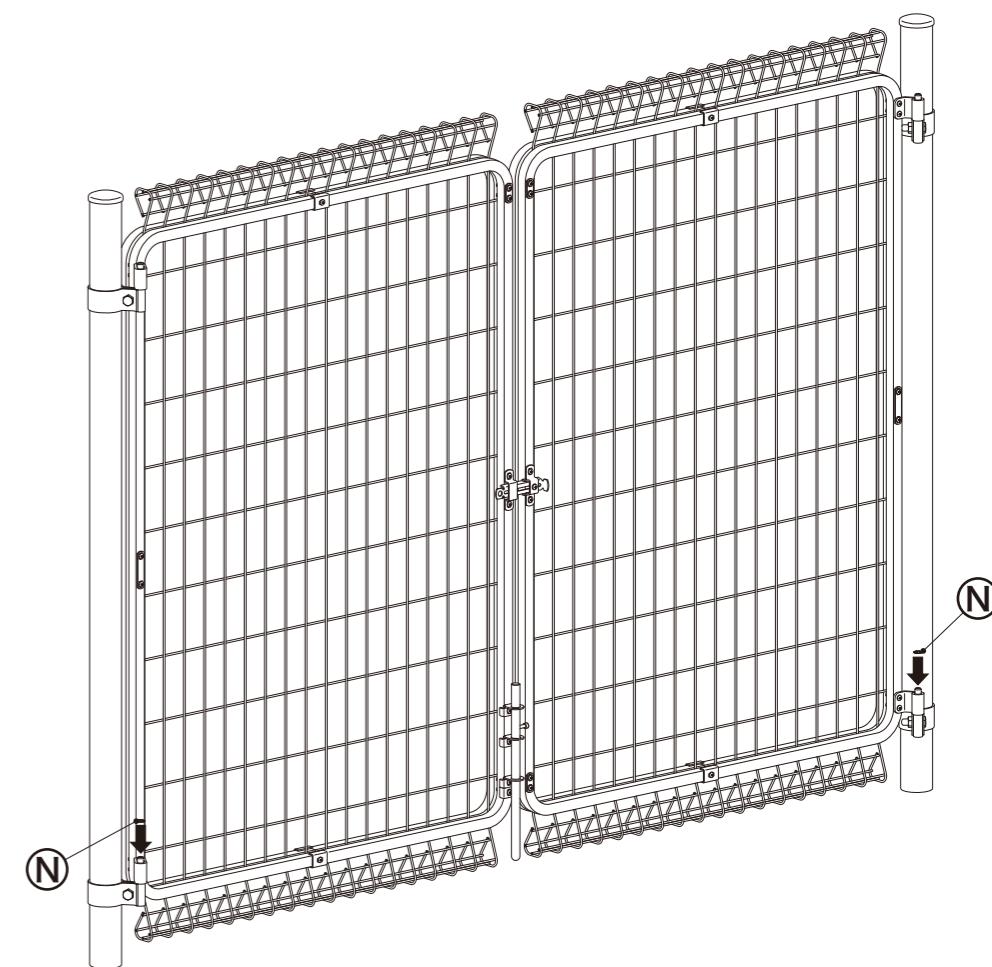
下図のように組立てます。ボルト・ナットは本締めせず、仮止めにて全体を組み立ててください。  
表記のないボルト・ナットは J 角根ボルト M6×60 ワッシャ丸付ナットにて組立てます。



・現地穴あけ箇所はバリ取り後補修塗りを施す。

## ③ 完成

枠のねじれ、ゆがみを正してボルト・ナットを本締めし、門柱に取付けます。下側の蝶番部に止め輪をつけて完成です。

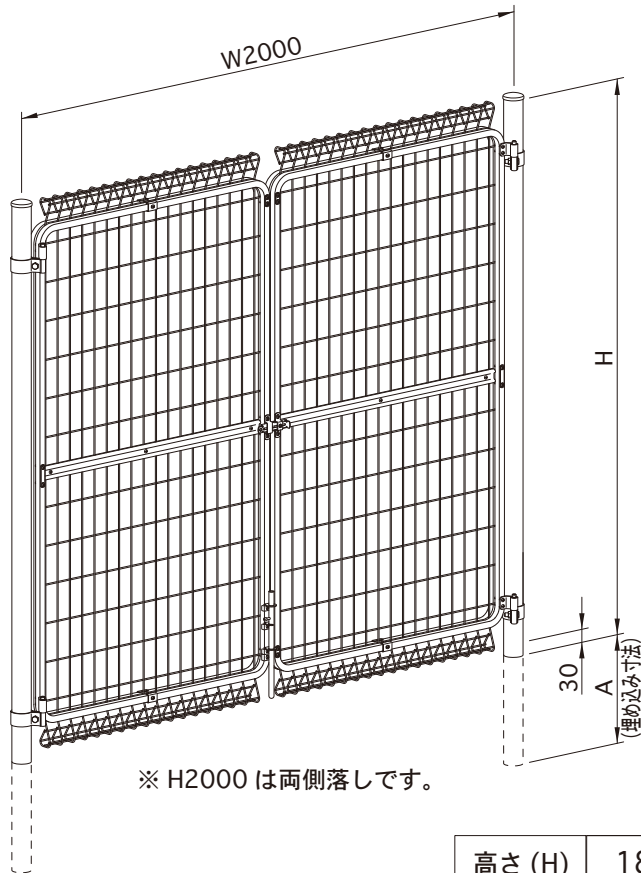
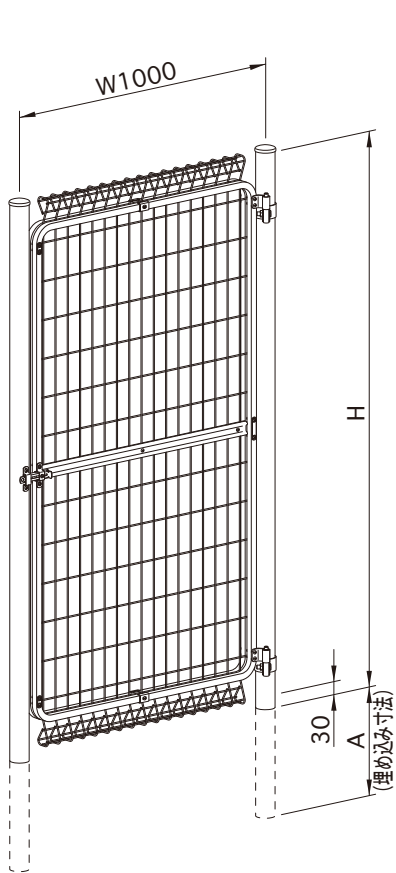




○ H1800~H2000 の場合

片開き門扉 W1000

両開き門扉 W2000



※ H2000 は両側落としです。

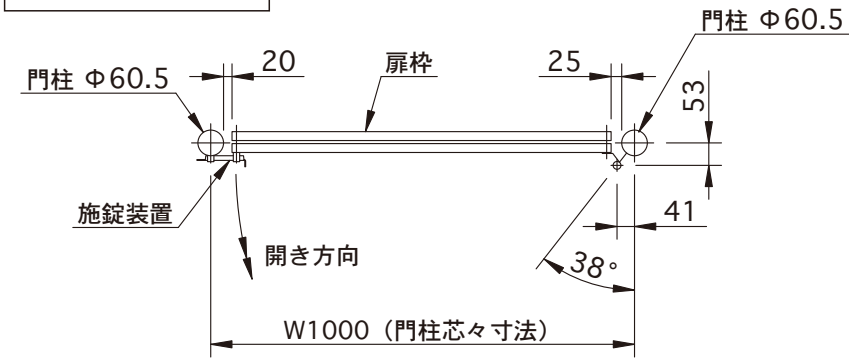
単位 mm

高さ (H)	1800	2000
門柱埋込み寸法 (A)	350	350

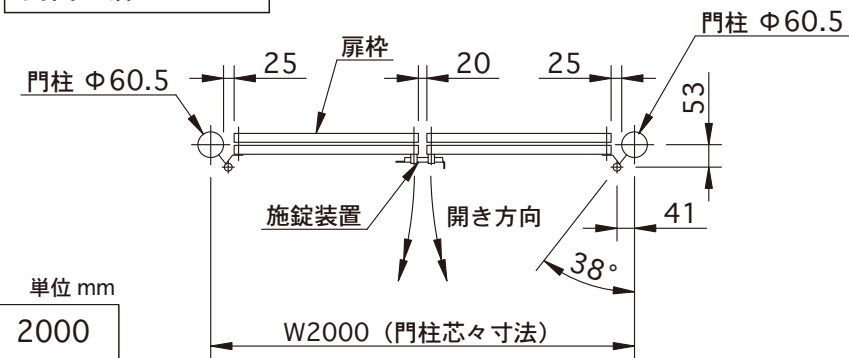
門柱・扉本体施工平面図

門柱建込み時に必ず確認して下さい。

片開き扉 W1000



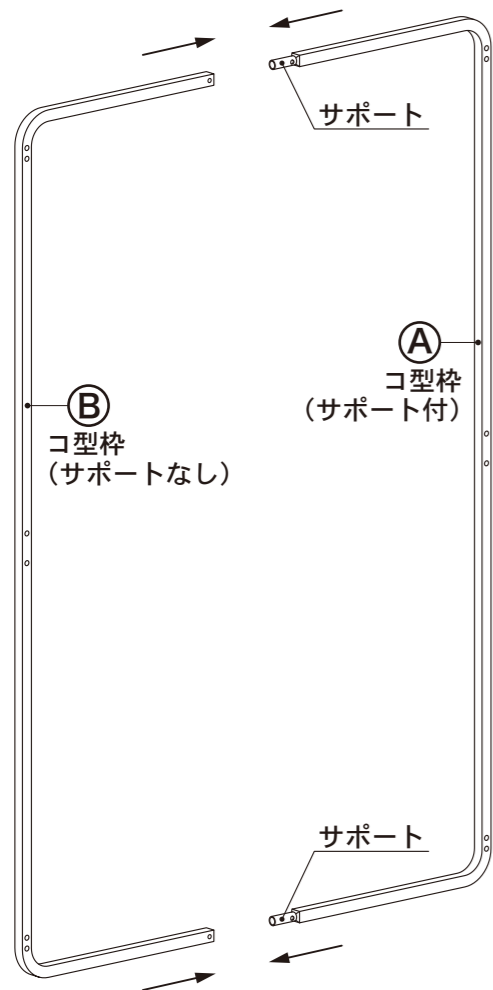
両開き扉 W2000



# ① パネルの準備

## (a) 扉枠

コ型枠を下図のように差し込み、扉枠をつくります。(ボルト留めはしない。)



### 門扉幅を小さくする場合

・扉枠は片開き門扉をW1000用、両開きはW2000用で製作しています。門扉幅を小さくする場合は、現地にて(B)コ型枠サポートなし側の接続部(上下)をカット・穴あけして組立てしてください。(接続位置は扉中央にはなりません。)  
 中段横枠は片側をカット・穴あけし、横枠アダプターを使用して組立ててください。(左図参照)

### 門扉の最小門扉幅は

- 片開き門扉の場合 …… W680
- 両開き門扉の場合 …… W1300
- (両側扉が均等寸法時)

・カット・穴あけ箇所は補修塗料で塗装をしてください。

扉枠にパネルを仮置き



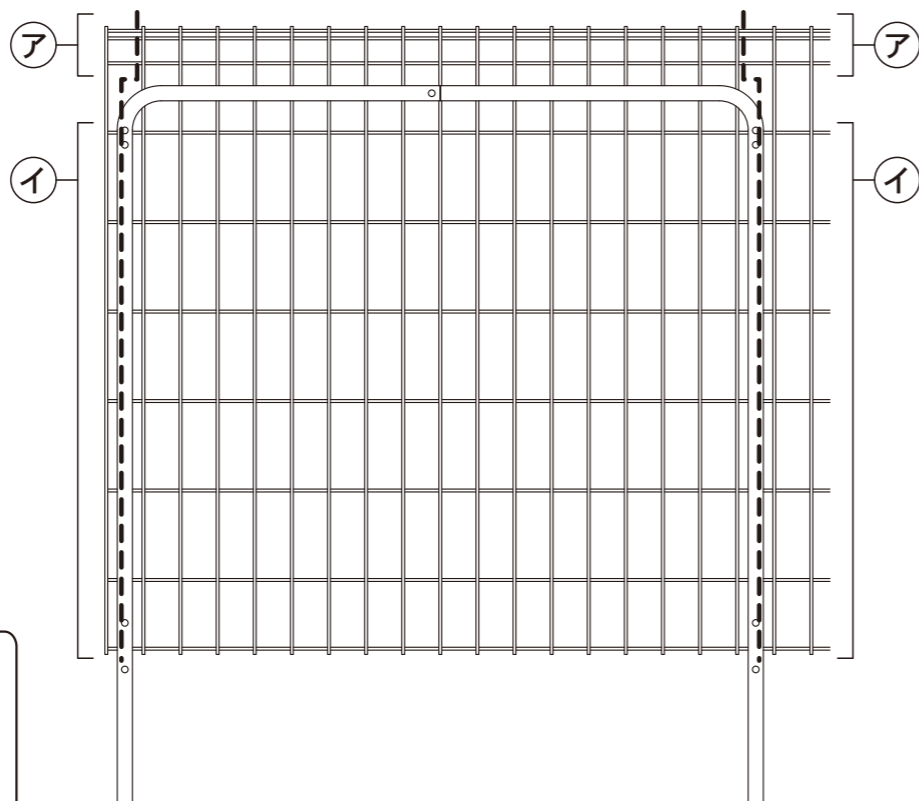
切り出しパネルを上下に配置



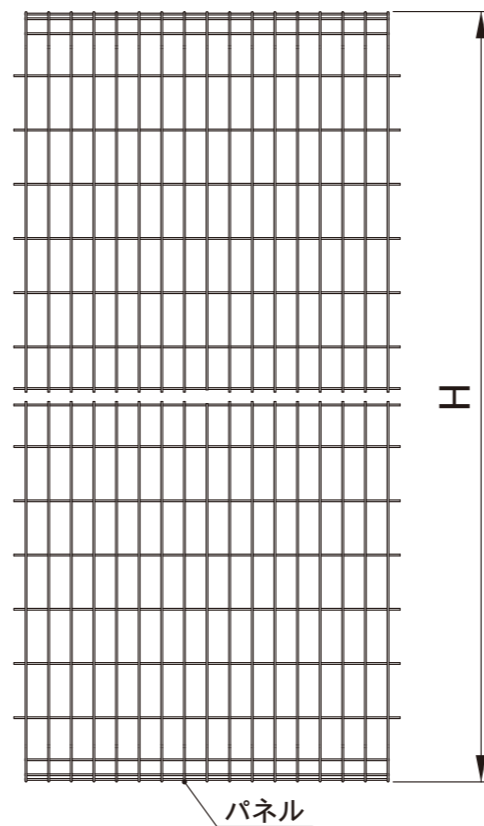
## (b) パネルのカット

パネルに(a)の扉枠を仮置きし、下図のラインでカットします。(扉枠のサポート部が奥まで確実に入っていることを確認してください。)

- ・本図は片開き門扉(W1000)の例です。両開き(W2000)では、コ型枠の幅が20mm広いのでカット位置が多少異なります。
- ・一枚のパネル(2m)から、パネル2枚を切り出します。
- ・扉枠1組当たり、切り出しパネル2枚が必要です。
- ・横線がボルト穴にかかる場合は切断して調整してください。



## (c) 扉用パネル組み



横枠で上下パネルを挟み込む



ボルト・ナットを締付ける



横枠

角根ボルトM6×15  
ワッシャ 丸付ナット

横枠を端尺加工した際は  
 横枠アダプター  
 を取付けて、角根ボルトを  
 挿入してください。  
 角根ボルトが空回りするのを防ぎます。

パネル

### パネル横線カット部

ア部

イ部

鋭い突起部分

扉枠

注) 扉枠とパネルの位置関係は左記寸法の範囲内とし、イ部は横線を扉枠で挟み込むため、突き出しをとること。

⚠ 切断部分の鋭い突起は危険です。サンダー又はヤスリで削ってください。同梱の補習用塗料で切断面を補修塗りしてください。(2回塗り)

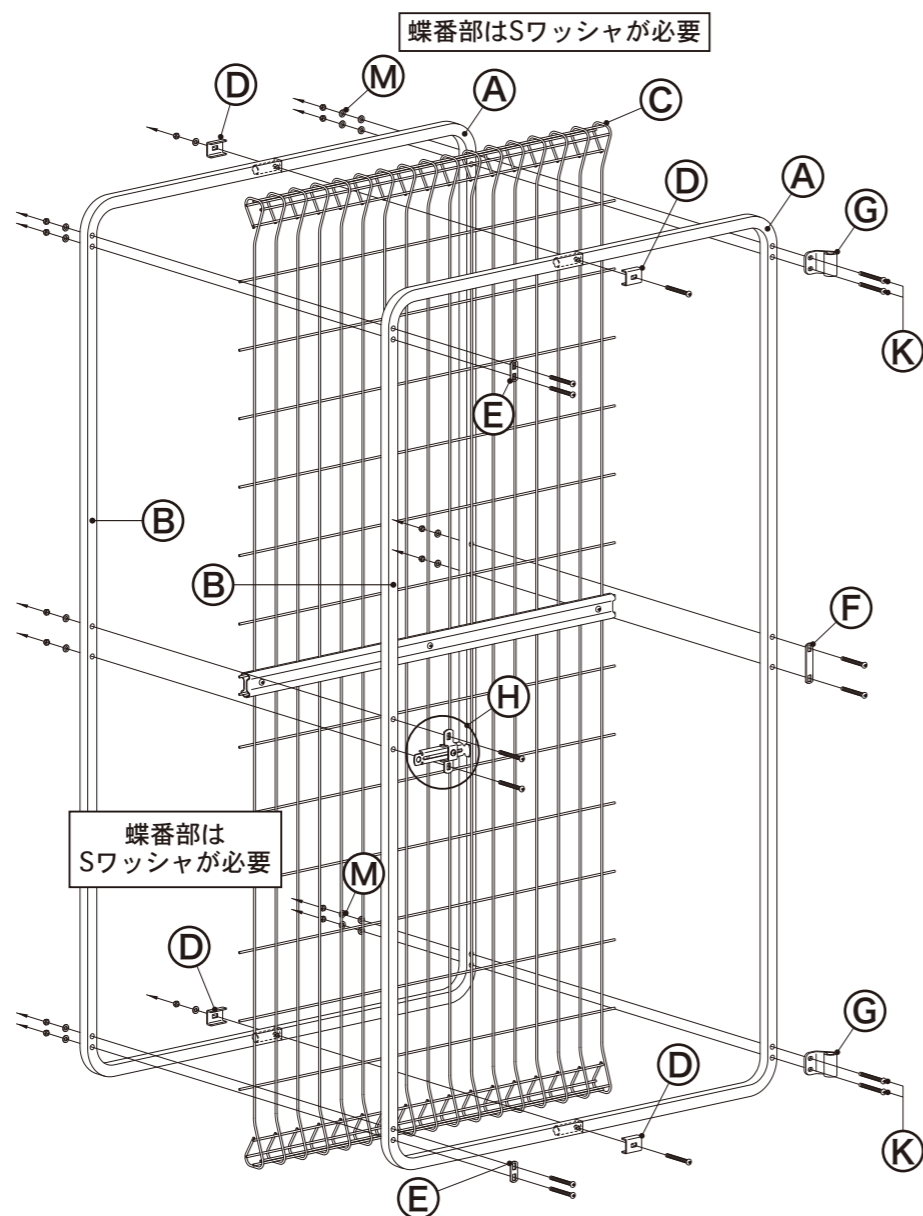
② 組立て [W1000片開き] ・下記はFM門扉の組立ての一例です。開き方向、施錠側によりボルト方向、蝶番方向等を適宜変更してください。

〈門扉1基に使用する部材〉 門柱は除く

記号	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)※1	(F)※1	(G)	(H)	(I)	(J)	(K)	(L)	(M)	(N)	(S)	(T)	(U)
部材	コ型枠 (サポート付)	コ型枠 (サポートなし)	パネル	枠接続 カバー L=35	4隅 カバー	センター カバー	枠側蝶番	・施錠レバー ・レバー支持 ・トラスビスUNT M5×14(W3)	レバー 受け	角根ボルト M6×60 ワッシャ 丸付ナット	角根ボルト M6×63 ワッシャ 丸付ナット	角根ボルト M6×72 ワッシャ 丸付ナット	Sワッシャ M6	止め輪 セットM12 (止め輪2枚入)	横枠	角根ボルト M6×15 ワッシャ 丸付ナット	横枠 アダプター
数量	2	2	2(切り出し後)	4	6	4	2	1	1	10	4	2	4	1	2	3	1

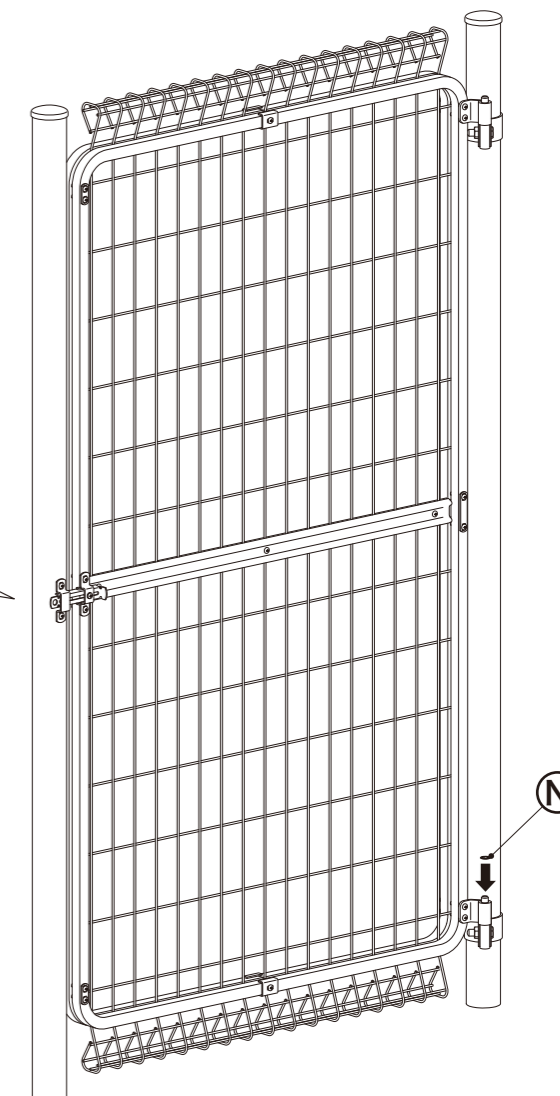
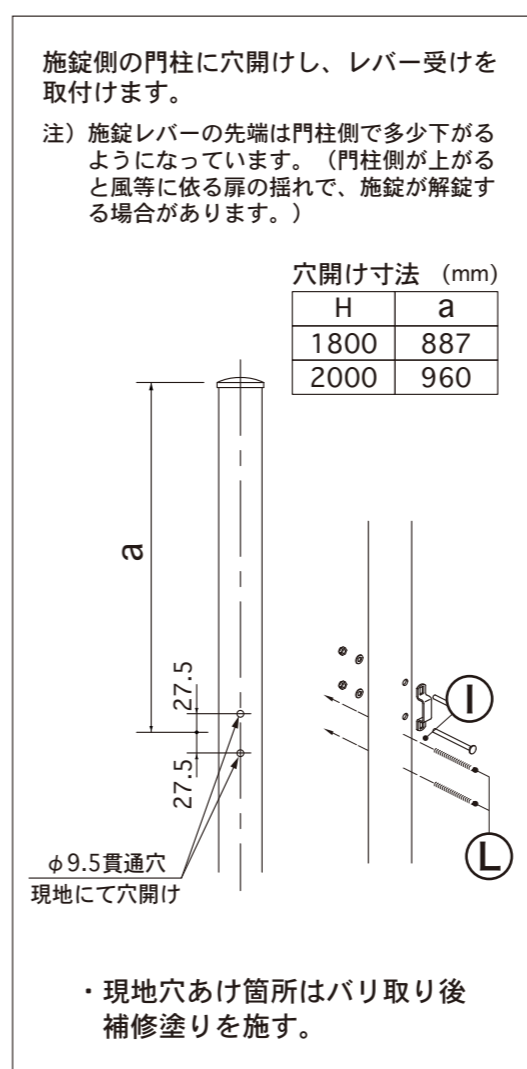
下図のように組立てます。ボルト・ナットは本締めせず、仮止めにて全体を組み立ててください。表記のないボルト・ナットは①角根ボルト M6×60 ワッシャ丸付ナットにて組立てます。H1800・H2000 は中段横枠付です。取付要領は 6/10 を参照ください。注) H2000 の扉枠は上・下対称ではありません。施錠取付位置が上方になるようにして、組立ててください。(片開きのみ)

※1  
[ 4隅カバー、センターカバーは  
開き方向により、ボルト頭側に  
追加が必要な場合があります。 ]



③ 完成

枠のねじれ、ゆがみを正してボルト・ナットを本締めし、門柱に取付けます。下側の蝶番部に止め輪をつけて完成です。



## ② 組立て [W2000両開き]

・下記はFM門扉の組立ての一例です。開き方向、施錠側によりボルト方向、蝶番方向、落とし取付け側等を適宜変更してください。

〈門扉1基に使用する部材〉 門柱は除く


記号	A	B	C	D	E ※1	F ※1	G	H	I	J	K	M	N	O	P	Q	R	S	T
部材	コ型枠 (サポート付)	コ型枠 (サポートなし)	パネル	枠接続 カバー L=35	4隅 カバー	センター カバー	枠側蝶番	・施錠レバー ・レバー支持 ・トラスビスUNT M5×14(W3)	レバー 受け	角根ボルト M6×60 ワッシャ 丸付ナット	角根ボルト M6×63 ワッシャ 丸付ナット	Sワッシャ M6	止め輪 セットM12 (止め輪2枚入)	落とし棒 16×345	上下 落とし受け	中間 落とし受け	落としカバー	横枠	角根ボルト M6×15 ワッシャ 丸付ナット
数量	4	4	4(切り出し後)	8	11(10)	6	4	1	1	22(24)	8	8	2	1(2)	2(4)	1(2)	2(4)	4	6

下図のように組立てます。ボルト・ナットは本締めせず、仮止めにて全体を組み立ててください。  
表記のないボルト・ナットは J 角根ボルト M6×60 ワッシャ丸付ナットにて組立てます。

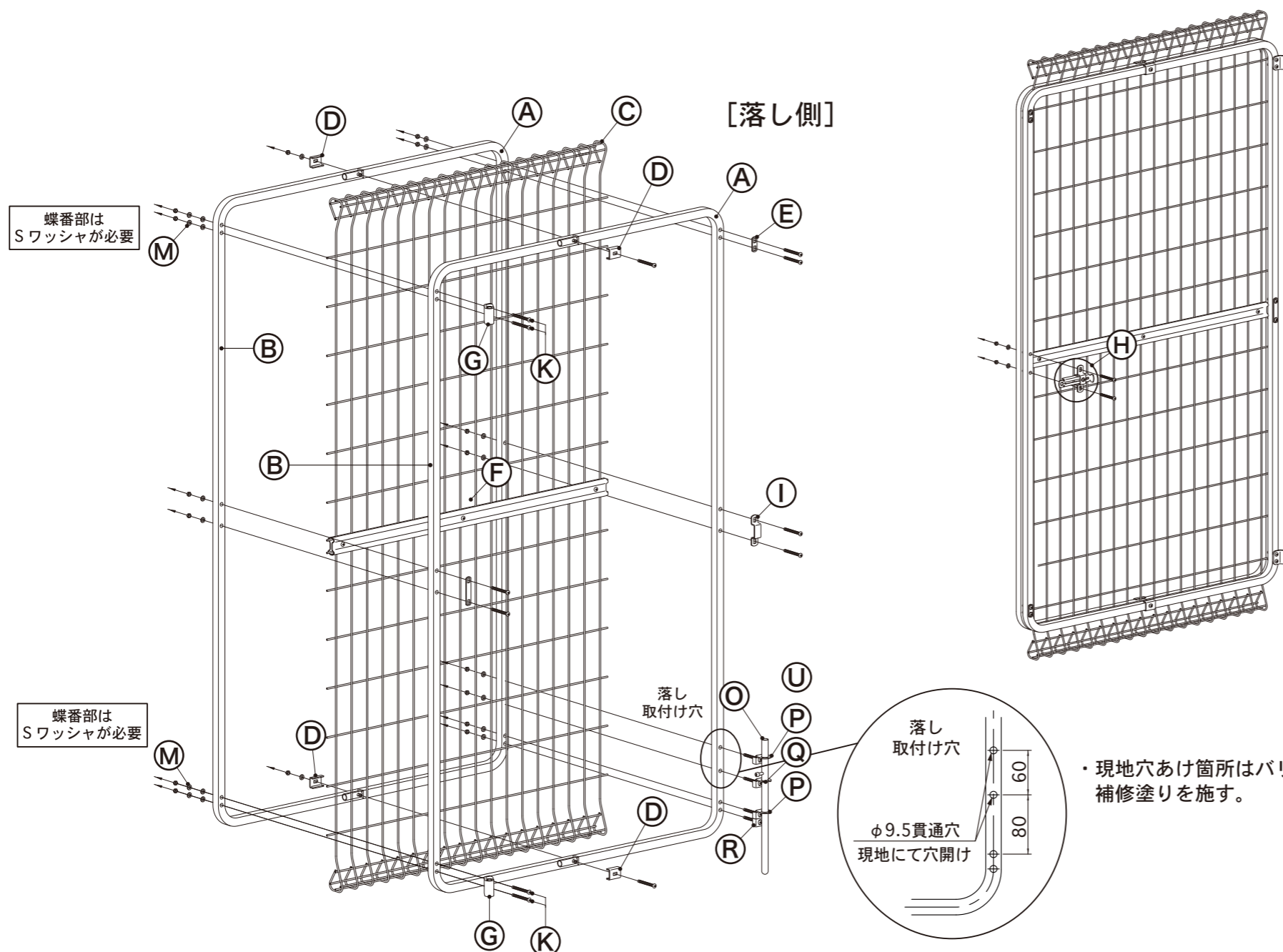
※1  
4隅カバー、センター  
カバーは開き方向によ  
り、ボルト頭側に追加  
が必要な場合があります。

※2  
〔 〕はH2000の場合  
です。H2000のみ施  
錠側にも落としを設けま  
す。

U  
横枠  
アダプター

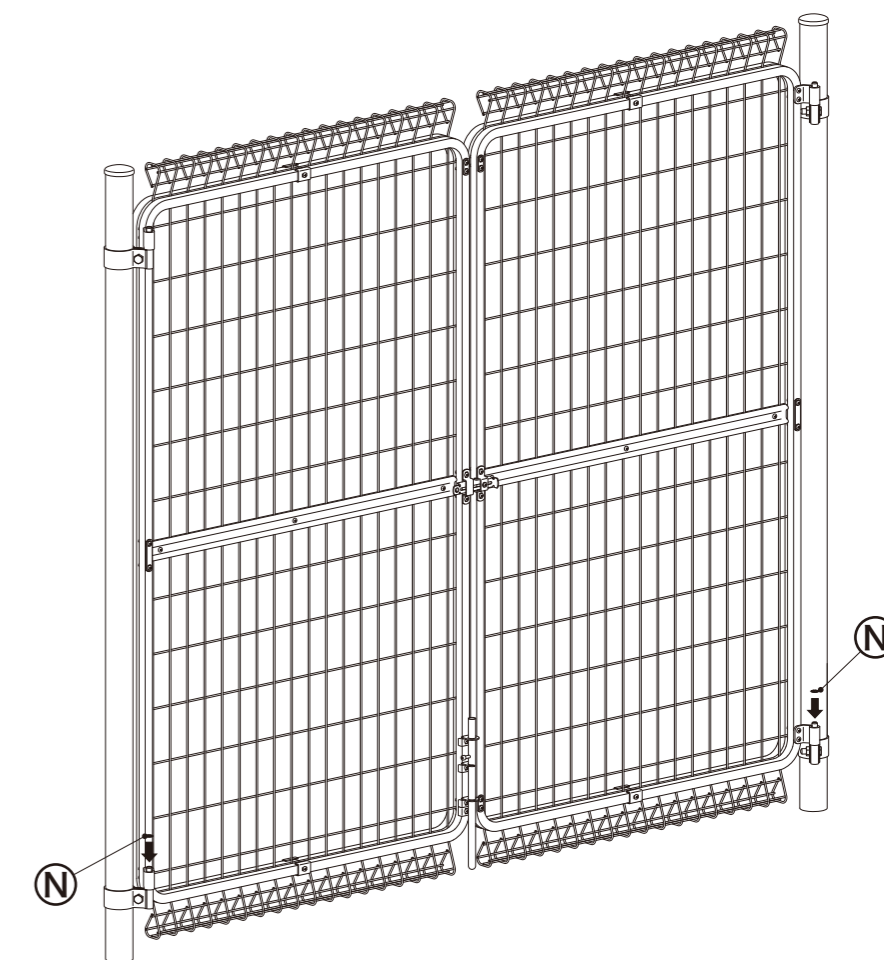


2



## ③ 完成

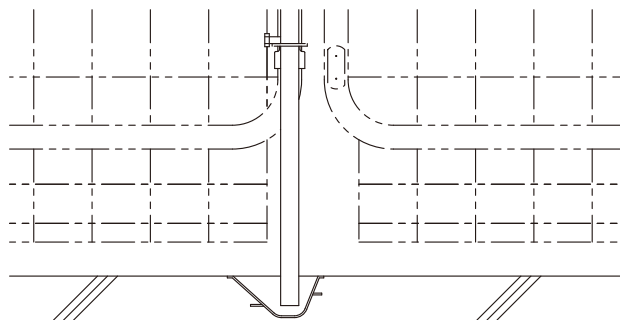
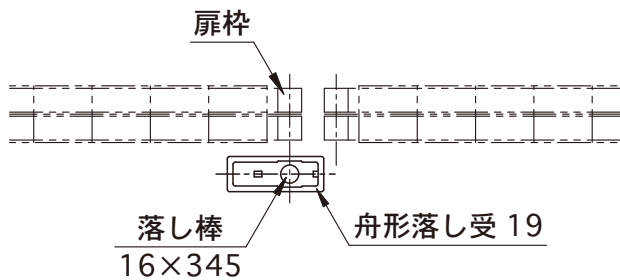
枠のねじれ、ゆがみを正してボルト・ナットを本締めし、門柱に取付けます。下側の蝶番部に止め輪をつけて完成です。



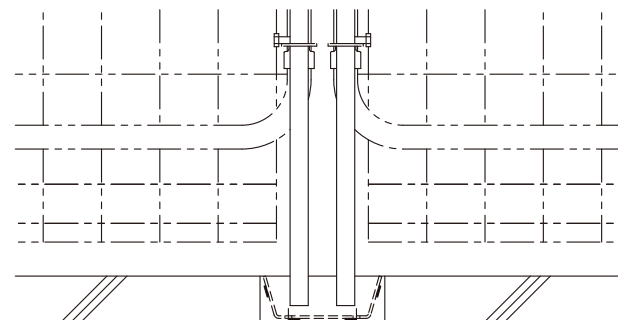
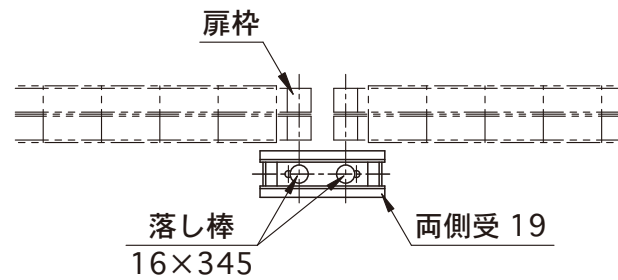


# 落とし受け設置要領

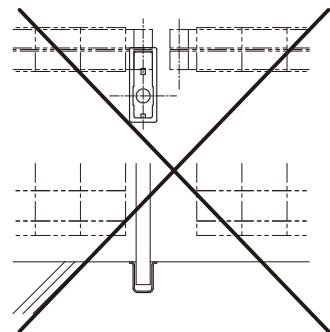
両開き門扉 片側落としの場合  
(H800~H1800 × W2000)



両開き門扉 両側落としの場合  
(H2000 × W2000)



## 誤った設置例



左図のように設置すると  
閉時、扉のガタツキが大きくなります。

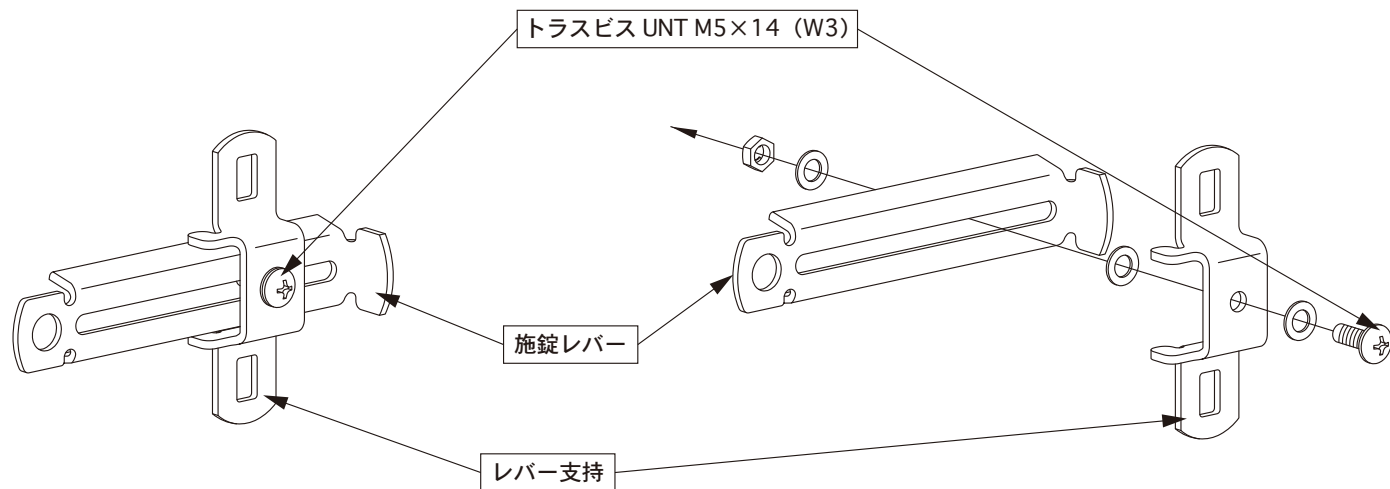
# 施錠レバー装置の再調整手順

施錠レバー装置は工場で調整して出荷しておりますので、そのまま扉枠に取付ください。

再調整が必要な場合は、以下の手順で行ってください。

- ① 施錠レバー装置取付角根ボルト M6×60を緩めて、扉枠から施錠レバー装置を外す。
- ② 施錠レバー取付用トラスビスUNT M5×14(W3)を⊕ドライバーとスパナ等で締め付けした後、ドライバー側を180度(半回転)緩める方向に回す。
  - ・ナットからボルトのネジ山が(2山)出ていることを確認。(取付写真参照)
  - ・施錠レバーの動きを確認。
 状況により緩め角度は調整してください。
- ③ 施錠レバー装置を角根ボルト M6×60で扉枠に取付ける。
- ④ 施錠の操作性を確認し完了。

## 施錠レバー装置



## 取付写真

